

# 巻頭言

## 「公共、新しい公共」を問う

### — 社会変革のための「公共」をこそ —

日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会理事長 永戸 祐三

今、公共が問われている。公共とは何かという根本のところから、行政のあり方、市民、地域との関係など多面的、総合的にどうあるべきか、厳しく検討されながら、しかし事実、公共ははっきり変化を始めている。

直接的な契機としては、政府・行政の財政的危機に端を発していることは明らかであろう。しかし、それも市場主義の限界の中で、もはや経済成長神話で明日の豊かさを幻想できなくなっていることも関係しており、そこが基本ともなっている。

それ以上に、私は最近よく耳にする「近代工業社会400年の終わり」というように、時代と社会の全世界的転換期の中で問われていることのひとつという側面が大きいのではないかと思う。

市場原理主義というべきものの跋扈<sup>ばっこ</sup>は、社会矛盾を高めずにはおかず、社会が社会として機能せず、人の絆や地域を破壊した。社会の連帯性を徹底的に脆弱化させた。これからもなお、資本の増殖、極大化、それもグローバルに金融システムを駆使して実現しようとするを善とし続けるのか。

成長経済こそが、人々に幸福をもたらす

豊かな社会が実現するとされた路線は、一定の物質的豊かさと引き換えにもたらされた破壊的な現実によって、圧倒的人々にとって、それはもはや神話に過ぎなかったと受けとめられている。

無縁社会、自殺者3万人超が10年以上も続き、高齢者に老後の安心はなく、子ども、少年の目に未来への夢は映らず、貧困、格差の圧倒的拡大、そして大失業の到来、そしてさらにこれに輪をかけた政治の機能麻痺。

今重要なことは、これらの事実、事態を多くの人が目を背けず直視し、むしろ事の本質を見定めようとしているところにあるのではないか。

そして、こうした中でこそ、公共とは何か、これらの社会の現実を超えるために公共がどうあるべきかという役割を果たすべきなのかを問うことにこそ、「新しい公共」の意味があるのだと言わなければならない。

こうした中で、事の根本を含めて、どうあるべきか、誰もが直視し始めている。

人間とは、社会とは何かを問わざるを得ず、正義とか、人権とか、自由とは何か、といったことを含めて、人間生活を真に豊かなものにするとはどういうことか。その

ためには、地域や社会全体の有り様がいかにあればよいのか、皆の現実的テーマとなり、「新しい公共」は、その意味で本質的で重いテーマとして登場したと言える。

これまで「優秀な日本の官僚制度」と賞賛されてもきたシステムも含めて、国家・行政の公務員制度を基本とした公共のあり方、いわゆる「官による公共の独占」の現実が、今真に人々の生活の豊かさと正義のために、真の「公共」の役割を果たし、機能しているのか、厳しい批判にさらされている。

そしてまた、国家・行政は成長経済をいつも待望し、それゆえに事実上市場至上主義的経済社会のあり方、金融詐欺的なグローバルイズムに道を拓くことにもなってきた。しかも、今もってそれは正当であるかのごとく許容され、社会は破壊されるにまかされている。失業や格差の拡大、自殺、行方不明者の増大などの社会現象を根本的に是正する政策の力強さはまったく見受けられない。矛盾を緩和するための、あれこれのつぎはぎ的政策に追われている。根本を見据え、根本矛盾の解決を鮮明にしない政策はないに等しい。

経済政策も、いわゆる雇用政策も「民間活力依存－市場依存」を絶対の前提としてきた。そしていつの日にか、国の政策の中心軸の一つともいうべき「完全雇用」の旗も投げ捨てられて久しい。

今このような状況の広がりや出口、行き先の見出し得ない閉塞感の中で、市民、労働者はこれまでのあれこれの限界を超えて、「生活や地域」を焦点として、社会の人間的な再生と真の豊かさへの歩み－活動に乗り出している。社会連帯の力を沸き立たせようとしている。

それは、市場原理主義の凶暴さを見抜きつつ、社会の人間的あり方を求める底深い取組み－運動となっていくであろう。

このことと真の公共の創造は、同一線上に位置するテーマと考えるべきではないか。公共とは、市民生活と地域に必要な不可欠な仕事(事業)の領域をいうのだと思われる。それゆえ、「新しい公共」は、市民性と労働者性を癒合した新しい市民によって担われるべき仕事(事業)の領域になってこそ、その発展が保障されるものとなると考えられる。

今私たちは、市場あつての社会から社会あつての市場へ、仕組みの有り様も含めて、根本的に転換していかなければならないし、そこにこそ未来への展望がある。そして、またその中でこそ、真の公共が豊かに機能し、その本来の役割を果たすことになっていくであろう。

よく見受けられる、行政の下請け的発想で、こそくなやり方を伴った「公共の民間委託」的なあり方に、ゆめゆめ陥ってはなるまいと強く思うのである。